

平成28年度スーパーサイエンスハイスクール研究開発実施報告（要約）

① 研究開発課題	
探究心と探究力を確実に育成するカリキュラムとプログラムの開発 ～探究力で未来を拓け！～	
② 研究開発の概要	
<p>A 探究心と探究力を育成するカリキュラムの開発（探究カリキュラム）</p> <p>1 理数科における課題研究 2 理数科における学校設定科目</p> <p>3 普通科における探究活動</p> <p>B 生徒を探究活動に誘うプログラムの開発（探究プログラム）</p> <p>4 SS講演会 5 SS講座 6 SS出張授業 7 部活動の振興等 8 国際性の育成</p>	
③ 平成28年度実施規模	
<p>A 探究心と探究力を育成するカリキュラムの開発（探究カリキュラム）</p> <p>1 理数科における課題研究</p> <p> SS課題研究Ⅰ 理数科1年生 40名</p> <p> SS課題研究Ⅱ 理数科2年生 41名</p> <p> 3年生における課題研究 理数科3年生 40名</p> <p>2 理数科における学校設定科目</p> <p> SS理数科目 理数科1・2・3年生 121名</p> <p>3 普通科における探究活動</p> <p> 社会と情報 普通科1年生 324名</p> <p> 普通科における課題研究 普通科2年生希望者 8名</p> <p>B 生徒を探究活動に誘うプログラムの開発（探究プログラム）</p> <p>4 SS講演会 全校生徒 1098名</p> <p>5 SS講座 希望者延べ 267名</p> <p>6 SS出張授業 理数科及び普通科の受講者延べ 520名</p> <p>7 部活動の振興等 部員延べ 194名</p> <p>8 国際性の育成</p> <p> 英語による講義・実験 理数科1・2年生 81名</p> <p> 台湾海外研修 理数科2年生 20名・普通科2年生 8名 計 28名</p>	
④ 研究開発内容	
<p>○研究計画</p> <p>第1年次（平成26年度）</p> <p> 全事業の実施 特にSS課題研究Ⅰにおける指導方法・体制の開発</p> <p>第2年次（平成27年度）</p> <p> 全事業の実施 特にSS課題研究Ⅱにおける指導方法・評価方法の開発，事業評価の方法の開発</p> <p>第3年次（平成28年度）</p> <p> 全事業の実施 科学技術人材育成重点事業の総括的評価と今後の検討</p> <p>第4年次（平成29年度）</p>	

全事業の実施

第5年次（平成30年度）

全事業の実施 5年間の総括的評価と指定終了後の検討

○教育課程上の特例等特記すべき事項及び平成28年度の教育課程の内容

理数科1年次学校設定教科・科目（平成28年度入学生教育課程）

課題研究	新たに設置		SS 課題研究 I	2 単位			
理 数	理数数学 I	6 単位	→	SS 理数数学 I	6 単位		
	理数地学	3 単位	}	→	{	SS 理数物理 I	2 単位
	理数生物	3 単位				SS 理数化学 I	2 単位
SS 理数生物 I						2 単位	

理数科2年次学校設定教科・科目（平成27年度入学生教育課程）

課題研究	新たに設置		SS 課題研究 II	2 単位		
理 数	理数数学 II	3 単位	}	→	SS 理数数学 II	7 単位
	理数数学探究	3 単位				
理数物理	3 単位	}	→	{	SS 理数物理 II	2 単位
					SS 理数化学 II	2 単位
					SS 理数地学 I	2 単位
理数化学	3 単位					

理数科3年次学校設定科目（平成26年度入学生教育課程）

理 数	理数数学 II	6 単位	→	SS 理数数学 III	6 単位					
理数物理	3 単位	}	→	{	SS 理数物理 III	1 単位	理数物理探究	2 単位	}	選 択
					SS 理数化学 III	1 単位	理数化学探究	2 単位		
					SS 理数生物 II	2 単位	理数生物探究	2 単位		
					SS 理数地学 II	2 単位	理数地学探究	2 単位		
理数理科	1 単位									

○具体的な研究事項・活動内容（平成28年度）

A 探究心と探究力を育成するカリキュラムの開発（探究カリキュラム）

1 理数科における課題研究（カッコ内は単位数）

- (1) SS 課題研究 I (2) 基礎実習, 野外実習, 予備研究, 本研究テーマ設定
- (2) SS 課題研究 II (2) 本研究, 研究発表
- (3) 3年生における課題研究（課外活動） 継続研究, 対外発表, 報告書執筆

2 理数科における学校設定科目（カッコ内は単位数）

- SS 理数物理 I (2) SS 理数化学 I (2) SS 理数生物 I (2) SS 理数数学 I (6)
- SS 理数物理 II (2) SS 理数化学 II (2) SS 理数地学 I (2) SS 理数数学 II (7)
- SS 理数物理 III (1) SS 理数化学 III (1) SS 理数生物 II (2) SS 理数地学 II (2)
- 理数物理探究 (2) 理数化学探究 (2) 理数生物探究 (2) 理数地学探究 (2)
- 理数理科 (1) SS 理数数学 III (6)

3 普通科における探究活動（カッコ内は単位数）

- (1) 社会と情報 (2) 情報リテラシー, 探究基礎力, テーマ探究
- (2) 普通科における課題研究（課外活動）

B 生徒を探究活動に誘うプログラムの開発（探究プログラム）

4 SS 講演会 全校講演会

5 SS 講座 高大連携等を活用した講座

6 SS 出張授業 高大連携等を活用した正課授業内における講義・実験

7 部活動の振興等

(1) 自然科学系部活動の振興 科学オリンピックへの参加等

(2) たちばな理科学会の活性化

8 国際性の育成

(1) 英語による講義・実験

(2) 海外研修 台湾海外研修

⑤ 研究開発の成果と課題

○平成 28 年度の実施による成果とその評価

A 探究カリキュラム

1 理数科における課題研究

(1) SS 課題研究Ⅰ 予備研究設定テーマ：15 件

(2) SS 課題研究Ⅱ 設定テーマ：28 件 ルーブリックを用いた学習評価の実施

(3) 3 年生における課題研究（課外活動） 設定テーマ：1 件

2 理数科における学校設定科目

理数科 3 年生アンケート（4 点満点評価点）

SS 理数物理：3.4 SS 理数化学：3.6 SS 理数生物：3.3 SS 理数地学：3.1

SS 理数数学：3.5

3 普通科における探究活動

(1) 社会と情報 後期テーマ探究設定テーマ：90 件

(2) 普通科における課題研究（課外活動） 設定テーマ：4 件

B 探究プログラム

4 SS 講演会

第 1 回 平成 28 年 4 月 15 日（金） 本川達雄（東京工業大学）

第 2 回 平成 28 年 9 月 29 日（木） 元村有希子（毎日新聞社）

5 SS 講座

実施件数：13 件 参加生徒延べ 267 名

実施概要（参加人数／生徒アンケート 4 点満点評価点）

ロボット 4/22 千葉工大（19 名／4.0）／モデルロケット 5/28 本校（18 名／3.9）

化学実験 5/31 本校（27 名）／KEK 霧箱 6/24 本校（15 名／3.7）

研究所訪問 6/21DIC（9 名／3.9）／植物工場見学 7/14（10 名）

SS 自然教室 8/3～4 浅間・草津（31 名／3.7）／つくば校外研修 8/25（46 名／3.8）

遺伝子組換え 11/22・25 本校（30 名／3.8）／完全符号 11/22・25 本校（16 名）

物理実験 12/20 本校（3 名／3.3）／マセマティカ 12/26 千葉大（11 名／3.8）

ラット解剖 1/28 本校（34 名／3.9）

6 SS 出張授業

実施件数：2 件 受講生徒：延べ 13 学級・約 520 名

7 部活動等の振興

- (1) 各部活動の活動 自然科学部物理班・化学班 生物部 地学部 数学同好会 ほか
科学オリンピック等参加：日本生物学オリンピック 2016, 日本数学オリンピック 2017 予選
日本情報オリンピック 2016 予選, スーパーコンピューティングコンテスト 2016 本選
- (2) たちばな理科学会 サイエンスファンタジー, 千葉サイエンススクールフェスティバル

8 国際性の育成

- (1) 英語による講義・実験 実施件数：3 件
- (2) 台湾海外研修 英語による研究発表
事前学習 校内研修, 英語によるポスター発表等 (6 回)
校外合宿 平成 29 年 1 月 7 日(土)～8 日(日) 1 泊 2 日
本研修 平成 29 年 3 月 19 日(日)～24 日(金) 5 泊 6 日
理数科 2 年 20 名・普通科 2 年 8 名 計 28 名 引率教員：3 名
訪問先：大学 1, 高校(高級中学)3, ほか

○実施の効果とその評価

理数科 3 年生アンケート (4 点満点評価点)

課題研究：3.8 野外実習：3.7 英語による実験・講義：3.3 台湾研修：3.9
SS 講座：3.7 進路決定への影響：3.1 SSH 全般：3.8 理数科全般：3.7

「学校評価」による調査 (4 点満点評価点)

生徒：3.3 保護者：3.5

生徒参加状況 (希望者参加イベントに参加した生徒の割合)

理数科 1 年：88% 2 年：73% 3 年：13% 普通科 1 年：24% 2 年：13% 3 年：2%

卒業生アンケート 平成 24 年 3 月本校理数科卒業生

課題研究の経験や理数全分野を学習したことが大学進学後に有用であったとの回答が多かった。

事業全般の評価

第 I 期に引き続き, 全ての事業を計画通り実施してきている。理数科における課題研究に関しては, 1 年次の基礎実習～予備研究と 2 年次本研究が円滑につながるようになり, 生徒全員が探究プロセス全体を確実に学習できるようになった。また, 今年度から, 学習評価においてルーブリックを用いたパフォーマンス評価を導入し, 評価における妥当性・信頼性の一層の向上に取り組んだ。その他の事業においても実施体制・内容がほぼ確立した。事業全体の評価方法の開発, 成果の普及・発信も着実に進捗した。

○実施上の課題と今後の取組

A 探究カリキュラム

- ◇探究活動の指導目標の明確化・指導の焦点化の一層の推進
- ◇探究活動の評価方法の一層の開発

B 探究プログラム

- ◇より効果的な実施に向けた取組の見直し

事業全般

- ◇事業の継続・発展を可能にするため, 業務の分担・継承のあり方を工夫する。
- ◇事業の精選と効率化により, 教員負担の適正化を図る。

平成28年度スーパーサイエンスハイスクール研究開発の成果と課題

① 研究開発の成果

○平成28年度の実施による成果とその評価

A 探究カリキュラム

1 理数科における課題研究

(1) SS 課題研究 I

予備研究設定テーマ：15件

(2) SS 課題研究 II

設定テーマ：28件

地面を滑る紙の条件／溶液の違いによるダイラタンシー現象の関係

紙飛行機のエレベーターを変えたときの飛行の変化

紙飛行機の主翼の迎え角を変えたときの揚力の変化

界面張力差と石鹼ボートの速度／飴が溶けてしまう条件と溶けにくくする方法

金属イオンを最も吸着するアルギン酸ゲルの作製

木炭の作成条件や金属イオン添加による導電性の向上

EPDMの劣化と次亜塩素酸ナトリウム水溶液の温度・pHとの関係

様々な化学物質の利用による酸化チタンの酸化能力の変化

輪ゴムに接触する金属の違いによる劣化の変化

クエン酸を用いて土壌から放射性物質を分離する方法

紫外線がジョロウグモの牽引糸に与える影響／異なる植物の光合成速度の比較

ミズキンバイ（絶滅危惧種Ⅱ）が生育しやすい環境と保全の考察

なぜワモンゴキブリは2種類の糞をするのか

間隙水圧と円磨度の関係／模擬火成岩作成実験における冷却時間と結晶の状態の関係

寒天をモデルに用いた免震の研究／大気が夕日の色に与える影響

固体表面を上昇する液体の動き／星の瞬きの定量的観測／ $(a+bi)^n$ の規則性指折り掛け算の拡張／ハノイの塔の柱を x 本にして最小手順を求める

三次元数独の作成とその数学的性質／循環小数における循環節の規則性

四次元ルービックキューブで解の最小手順を求めるアルゴリズム

検証：6観点5段階のルーブリックを用いた学習評価及び生徒自己評価を実施した。

(3) 3年生における課題研究（課外活動）

設定テーマ：1件

シャープペンシルの芯にかかる力と折れやすさ（昨年度からの継続）

2 理数科における学校設定科目（カッコ内は単位数）

1年次 SS 理数物理Ⅰ(2) SS 理数化学Ⅰ(2) SS 理数生物Ⅰ(2) SS 理数数学Ⅰ(6)

2年次 SS 理数物理Ⅱ(2) SS 理数化学Ⅱ(2) SS 理数地学Ⅰ(2) SS 理数数学Ⅱ(7)

3年次 SS 理数物理Ⅲ(1) SS 理数化学Ⅲ(1) SS 理数生物Ⅱ(2) SS 理数地学Ⅱ(2)

理数物理探究(2) 理数化学探究(2) 理数生物探究(2) 理数地学探究(2)

理数理科(1) SS 理数数学Ⅲ(6)

理数科3年生アンケート(4点満点評価点)

SS 理数物理:3.4 SS 理数化学:3.6 SS 理数生物:3.3 SS 理数地学:3.1
SS 理数数学:3.5

3 普通科における探究活動

(1) 社会と情報

後期テーマ探究設定テーマ:90件 調査系:57件 実験系:33件

(2) 普通科における課題研究(課外活動)

設定テーマ:4件

砂糖がゼリーの弾性に与える効果と温度や有機溶媒による影響

黄銅における腐食のメカニズム/月の満ち欠けと明るさの関係/円筒型オセロの性質

B 探究プログラム

4 SS 講演会

第1回 平成28年4月15日(金) 本川達雄(東京工業大学)

第2回 平成28年9月29日(水) 元村有希子(毎日新聞社)

5 SS 講座

実施件数:13件 参加生徒延べ267名

実施概要(参加人数/生徒アンケート4点満点評価点)

ロボット4/22 千葉工大(19名/4.0) /モデルロケット5/28 本校(18名/3.9)

化学実験5/31 本校(27名) /KEK霧箱6/24 本校(15名/3.7)

研究所訪問6/21DIC(9名/3.9) /植物工場見学7/14(10名)

SS自然教室8/3~4 浅間・草津(31名/3.7) /つくば校外研修8/25(46名/3.8)

遺伝子組換え11/22・25 本校(30名/3.8) /完全符号11/22・25 本校(16名)

物理実験12/20 本校(3名/3.3) /マセマティカ12/26 千葉大(11名/3.8)

ラット解剖1/28 本校(34名/3.9)

6 SS 出張授業

実施件数:2件 受講生徒:延べ13学級・約520名

7 部活動等の振興

(1) 各部活動の活動

自然科学部物理班・化学班 生物部 地学部 コンピューター部 数学同好会

科学オリンピック等への参加

日本生物学オリンピック2016予選/日本数学オリンピック2017予選

日本情報オリンピック2016/スーパーコンピューティングコンテスト2016本選

(2) たちばな理科学会

サイエンスファンタジー, 千葉サイエンススクールフェスティバルへの参加

8 国際性の育成

(1) 英語による講義・実験

理数科1年 ①入門講義11/14(月) ②理科実験2/22(水)

理数科2年 ③講義9/14(水)

(2) 台湾海外研修 英語による研究発表

事前学習 校内研修, 英語によるポスター発表等 (6回)

校外合宿 平成29年1月7日(土)~8日(日) 1泊2日

さわやかちば県民プラザ

本研修 平成29年3月19日(日)~24日(金) 5泊6日

理数科2年20名・普通科2年8名 計28名 引率教員:3名

訪問先: 淡江大学, 板橋市立板橋高級中学, 国立基隆高級中学

国立科学工業園区実験高級中学 ほか

○全般的な成果とその評価

理数科3年生アンケート (4点満点評価点)

課題研究: 3.8 野外実習: 3.7 英語による実験・講義: 3.3 台湾研修: 3.9

SS講座: 3.7 進路決定への影響: 3.1 SSH全般: 3.8 理数科全般: 3.7

「学校評価」による調査 (4点満点評価点)

生徒: 3.3 保護者: 3.5

生徒参加状況 (希望者参加イベントに参加した生徒の割合)

理数科1年: 88% 2年: 73% 3年: 13% 普通科1年: 24% 2年: 13% 3年: 2%

卒業生アンケート

対象: 平成24年3月本校理数科卒業生

課題研究の経験や理数全分野を学習したことが大学進学後に有用であったとの回答が多かった。卒業後の学習・研究活動に向けて確実に好影響を与えてきたことが見て取れる。

事業全般の評価

第I期に引き続き, 全ての事業を計画通り実施してきている。理数科における課題研究に関しては, 1年次の基礎実習~予備研究と2年次本研究が円滑につながるようになり, 生徒全員が探究プロセス全体を確実に学習できるようになった。また, 今年度から, 学習評価においてルーブリックを用いたパフォーマンス評価を導入し, 評価における妥当性・信頼性の一層の向上に取り組んだ。その他の事業においても実施体制・内容がほぼ確立した。事業全体の評価方法の開発, 成果の普及・発信も着実に進捗した。

② 研究開発の課題

A 探究カリキュラム

◇探究活動の指導目標の明確化・指導の焦点化の一層の推進

◇探究活動の評価方法の一層の開発

B 探究プログラム

◇より効果的な実施に向けた取組の見直し

事業全般

◇事業評価, 教員研修等のより効果的な実施

◇事業の継続・発展を可能にするため, 業務の分担・継承のあり方を工夫する。

◇事業の精選と効率化により, 教員負担の適正化を図る。

平成 28 年度科学技術人材育成重点枠実施報告（要約）

① 研究テーマ	
科学的創造力のある人材を育成する全県的小中高大ネットワークシステムの開発 ～千葉サイエンススクールネット～	
② 研究開発の概要	
<p>3つの機能（サブシステム）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを持つ事業として、A～Dの4つの事業を実施した。</p> <p>（Ⅰ）キャッチ機能・・・全県の資質と意欲のある児童・生徒を探究活動に誘導する機能。</p> <p>（Ⅱ）フォローアップ機能・・・高校生の探究心と探究力をネットワークにより育成する機能。</p> <p>（Ⅲ）ランチアップ機能・・・未来の日本・世界で活躍できる人材を発進させる機能。</p> <p>A：千葉サイエンススクールフェスティバル（略称SSフェス）（Ⅰ・Ⅱ）</p> <p>B：課題研究発表会（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）</p> <p>C：SS ネットセミナーとSS ネット交流会（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）</p> <p>D：課題研究支援と指導研究会（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）</p>	
③ 平成 28 年度実施規模	
<p>連携高等学校（32校）</p> <p>スーパーサイエンスハイスクール指定校（7校）</p> <p>千葉県立船橋高等学校（H26SSH）／千葉市立千葉高等学校（H24SSH）</p> <p>千葉県立佐倉高等学校（H25SSH）／市川学園市川中学校・高等学校（H26SSH）</p> <p>千葉県立柏高等学校（H28SSH）／千葉県立長生高等学校（H28SSH）</p> <p>千葉県立木更津高等学校（H28SSH）</p> <p>その他の高等学校（25校）</p> <p>千葉県立千葉高等学校／千葉県立千葉東高等学校／千葉県立千葉北高等学校</p> <p>千葉県立千城台高等学校／千葉県立幕張総合高等学校／千葉県立薬園台高等学校</p> <p>千葉県立小金高等学校／千葉県立東葛飾高等学校／千葉県立柏の葉高等学校</p> <p>千葉県立我孫子高等学校／千葉県立佐原高等学校／千葉県立匝瑳高等学校</p> <p>千葉県立成東高等学校／千葉県立安房高等学校／千葉県立君津高等学校</p> <p>千葉県立袖ヶ浦高等学校／銚子市立銚子高等学校／芝浦工業大学柏中学高等学校（H16SSH）</p> <p>東邦大学付属東邦中学校高等学校／成田高等学校／和洋国府台女子中学校高等学校</p> <p>千葉県立成田西陵高等学校／東海大学付属浦安高等学校・中等部／千葉県立大原高等学校</p> <p>千葉県立実籾高等学校</p> <p>大学（3学）</p> <p>千葉大学／東邦大学／千葉工業大学</p> <p>小・中学校（42校）</p> <p>参加生徒数 連携校生徒 1,848名（のべ2,487名）（連携中学校生徒を含む）</p>	

④ 研究開発内容

○具体的な研究事項・活動内容

A：千葉サイエンススクールフェスティバル

平成 28 年 8 月 6 日(土)千葉工業大学

高校生・中学生による児童・生徒向け実験工作展 67 件／高校生研究紹介 15 件

大学 2 件／企業 1 件 934 名（連携高校生徒 403 名，来客 449 名，他教員等 82 名）参加

B：課題研究発表会

平成 29 年 3 月 18 日(土)市川学園市川中学校・高等学校

口頭発表 11 件 ポスター発表 205 件（予定）

連携高校 16 校 705 名 連携中学校 4 校 15 名 その他 総計約 800 名（教員等含む）

C：SS ネットセミナーと SS ネット交流会

(a) SS ネットセミナー

課題研究入門(2回)／丸沼・アサギマダラのマーキング調査／ヨウ素シンポジウム

地震波の科学講座／子供科学教室（中学生対象）／テーマ探究講座／化石産地踏査

化学オリンピック講座(実技編・筆記編)／生物学オリンピック講座

地学オリンピック講座／数学オリンピック講座

13 件 15 日実施 高校生・中学生のべ 271 名参加

(b) SS ネット交流会

県央地区課題研究交流会／県北地区課題研究交流会／県東地区課題研究交流会(SENEC)

3 件 3 日 10 校のべ 1,116 名参加（高校生）

D：課題研究支援と指導研究会

(a) 課題研究推進講座 I（テーマ設定の指導）

課題研究推進講座 II（研究の継続・発展）

2 件 2 日実施 教員のべ 43 名参加

(b) その他

①SSH 推進委員会 1 回実施

②SS ネット担当者会議 3 回実施

⑤ 研究開発の成果と課題

○実施による成果とその評価

規模の拡充

・平成 28 年度 計 18 件のべ 20 日の事業を実施し，連携校生徒 1,848 名（のべ 2,487 名）

・3 年間 計 61 件 69 日 連携校生徒の参加のべ 6,896 名

○実施上の課題と今後の取組

・生徒の探究力を真に伸ばす課題研究の取組

・科学的に興味・関心を更に探究学習へ結びつける取組

・適正な範囲での実施規模の拡大

・行政職を含めた組織体制の充実及び行政区分を越えた連携の推進

・教員の指導力向上及び継続可能な実施体制の確立

平成 28 年度科学技術人材育成重点枠の成果と課題

① 研究開発の成果

○平成 28 年度の実施による成果

A：千葉サイエンススクールフェスティバル

平成 28 年 8 月 6 日(土)千葉工業大学

高校生・中学生による児童・生徒向け実験工作展 67 件／高校生研究紹介 15 件

大学 2 件／企業 1 件 934 名(連携高校生徒 403 名, 来客 449 名, 他教員等 82 名)参加

B：課題研究発表会

平成 29 年 3 月 18 日(土)市川学園市川中学校・高等学校

口頭発表 11 件 ポスター発表 205 件(予定)

連携高校 16 校 705 名 連携中学校 4 校 15 名 その他 総計約 800 名(教員等含む)

C：SS ネットセミナーと SS ネット交流会

(a) SS ネットセミナー

課題研究入門(2 回)／丸沼・アサギマダラのマーキング調査／ヨウ素シンポジウム

地震波の科学講座／子供科学教室(中学生対象)／テーマ探究講座／化石産地踏査

化学オリンピック講座(実技編・筆記編)／生物学オリンピック講座

地学オリンピック講座／数学オリンピック講座

13 件 15 日実施 高校生・中学生 271 名参加

(b) SS ネット交流会

県央地区課題研究交流会／県北地区課題研究交流会／県東地区課題研究交流会(SENEC)

3 件 3 日 10 校のべ 1,096 名参加(高校生)

D：課題研究支援と指導研究会

(a) 課題研究推進講座Ⅰ(テーマ設定の指導)

課題研究推進講座Ⅱ(研究の継続・発展)

2 件 2 日実施 教員のべ 43 名参加

(b) その他

①SSH 推進委員会 1 回実施

②SS ネット担当者会議 3 回実施

全般的な成果

- ・計 18 件, のべ 20 日の事業を実施し, 連携校生徒 1,848 名(のべ 2,487 名)の参加を得た。
- ・課題研究発表会における参加数の増加(中学生参加の増加を含む)
- ・サイエンスセミナーの見直しを行い, SS ネットの特長を生かした講座を開講

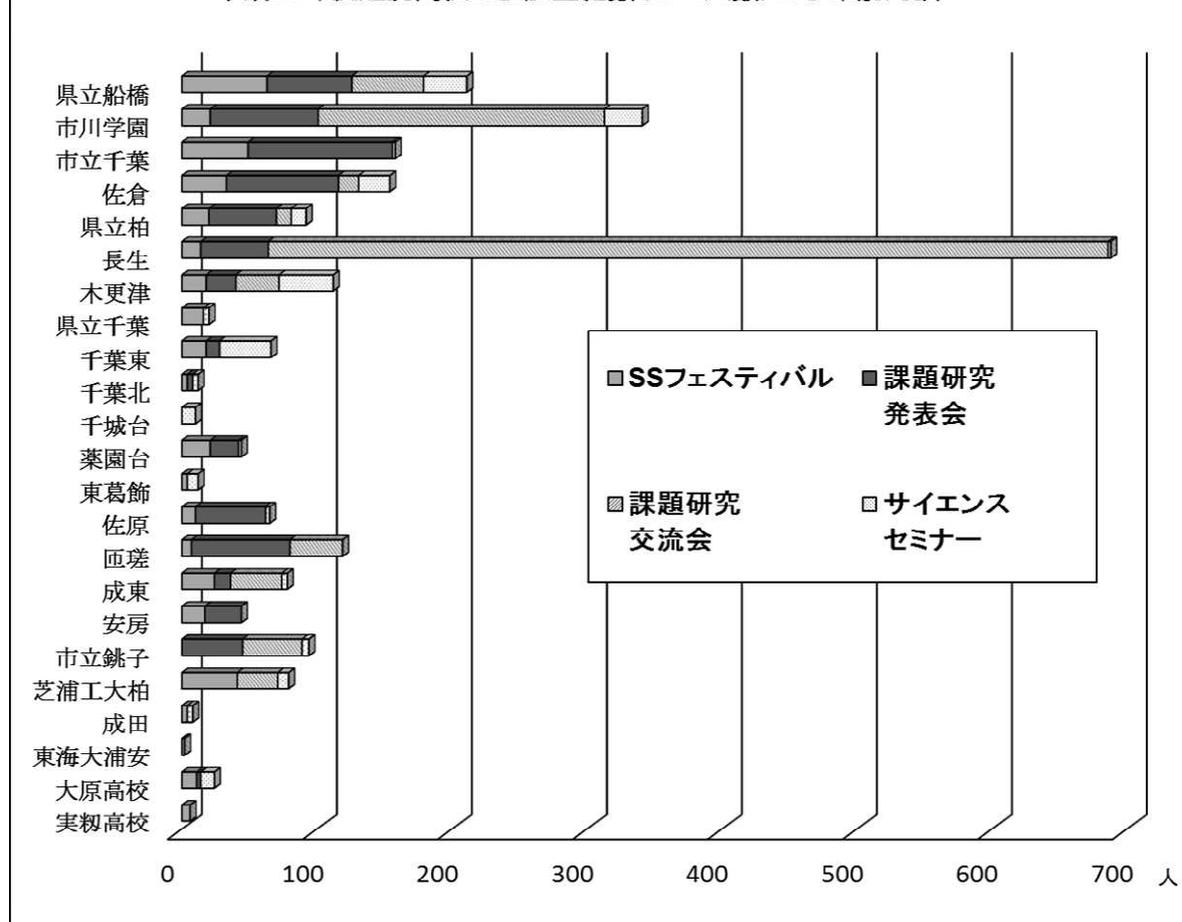
○3 年間の成果

- ・千葉サイエンススクールフェスティバルにおける参加生徒数(見学を除く)は, 第Ⅰ期(平成 23 年度指定コア SSH)の約 1.7 倍の参加を得ている。また, 中学生によるブースの参加希望も増えてきている。
- ・課題研究発表会においても, 第Ⅰ期の 1.5 倍以上の参加を得ており, SSH 校以外の課題研究活動の推進にも寄与していると実感している。
- ・連携各校の活動が活性化するとともに, 人的ネットワークの構築も促進された。

連携校の参加生徒数

年 度	SS フェスティバル (出展生徒)	課題研究 発表会	SS ネット 交流会 (見学含む)	SS ネット セミナー	参加実人数	参加 のべ人数
平成 26 年度	347	745	518	541	1, 276	2, 151
平成 27 年度	438	731	627	523	1, 451	2, 319
平成 28 年度	403	717	1, 096	271	1, 848	2, 487
合計人数	1, 188	2, 193	2, 241	1, 335	平均 1, 525	6, 957
合計実施数	3 回	3 回	11 回	43 件 52 日		

平成28年度連携高校の参加生徒数(のべ人数)の事業別内訳



② 研究開発の課題

- ・生徒の探究力を真に伸ばす課題研究の取組
- ・科学的興味・関心を更に探究学習へ結びつける取組
- ・適正な範囲での実施規模の拡大
- ・行政職を含めた組織体制の充実及び行政区分を越えた連携の推進
- ・教員の指導力向上及び継続可能な実施体制の確立